



*miho Hatanaka,*

ある年の暮、某幼稚園に招いていただき性教育を行った。保護者の参観もあり、子どもたちへの話が終わってからは大人に向けて話をした。子どもたちの素直な反応と笑い声の響く、楽しい、あたたかな時間であった。

今回は、子どもたちの“詩”と保護者の方たちによる「いのちのうた」の、二編を。



【第20話 いのちのうた 5 : こどものコトバ、大人のコトバ】

幼児に向けた性教育では特に言葉の理解など発達の違いを考慮しなくてはならず、対象の年齢によってどのような話をするのか、教材には何を用いるかは考えどころである。しかしその準備の過程は楽しい。この時は前もって子どもたちに「いのちとは何か」をテーマに絵を描いてもらい、園から郵送してもらった。性に関する主要な話の部分は大まかに決めておいて、絵を見てから展開を考えるようにしたのである。とは言え、子どもたちに初めて会うのは授業のある当日なので、この問いで描いてもらうには工夫も必要だった。どのような教示をすればどのような絵が描かれてくるのか、ある程度こちらの意図するところを表現してもらえるようにもしなくてはならない。いろいろなことは委ねる部分も多く、園には用いる言葉などまで細かにお願いの文書を添えた。

さて絵が届き、わくわくして包みを開けると、園で飼育している動物の絵、幼い下のきょうだいの誕生を祝う家族の様子、大きく描いた自分の顔などその子たちの生き生きとした姿が見えるよう。“絵を描いたその時のあなた”にしか描けないすてきな絵。それらを前にして話は自ずと展開し、子どもたち全員の絵をレイアウトした一つの物語ができた。「これを、読もう」。私の持つ専門知識はそれとしてツールではあるが、子どもたちの内にあるものによっていつも最も相応しい形として引き出されるように感じる。

むかしむかし、みんなははじめ、  
ちいさなちいさな“たまご”でした。  
ちいさなちいさな“たまご”は、  
しずかで あたたかな  
おかあさんのおなかのなかにいて、  
とてもしあわせでした。

おかあさんは うたいます。

ちいさなちいさな“たまご”ちゃん、  
あなたはねんねをしているの？  
はやくおかあさんのところにきてね…  
だっこしていっぱい、あそびましょう。

ちいさなちいさな“たまご”は  
おかあさんのやさしいこえをきいて、  
とてもうれしくなったので、  
おなかのなかでどんどんおおきくなりました。  
おかあさんのおなかのなかで、  
どんどんおおきくなりながら、  
くるくるとおどったり、  
しゃっくりをしたりしました。

どんどんおおきくなったので、  
ちいさなちいさなたまごは いつのまにか  
“ちいさなあかちゃん”になっていました。  
おかあさんのおなかのなかにいる  
“ちいさなあかちゃん”は、  
もっともっと どんどんおおきくなって、  
“ちゅうっくらのあかちゃん”  
になりました。

「おかあさん、もうおそとにでてもいい？」

…いえいえ、まだですよ…。

“ちゅうっくらのあかちゃん”は、  
またまたどんどんおおきくなりました。  
“ちゅうっくらのあかちゃん”は  
もっともっと おおきくなります。  
さあ、もうそろそろ、いいかな…

「もうおそとにでてもいい？」

…いえいえ、まだですよ…。  
もうちょっと おおきくなってからね。

“ちゅうっくらのあかちゃん”は、  
おかあさんのおなかのなかで  
おかあさんのこえをきいたり、ねむったり、  
わらったり、あしをうーんとのばしたりして、  
“ずいぶんおおきいあかちゃん”  
になりました。

…さあ、もうそろそろ、いいかな…

つきのきれいなしずかなよる、  
ずいぶんおおきくなった  
あかちゃん は、  
“おそとにでよう” と、きめました。

「おかあさん いま いきますよ…  
ぼくもがんばるから  
おかあさんもがんばってね…」

おかあさんは、まちました。

やっとやっと、  
あなたにあえるよ…  
このひをずっと、  
まっていました。

…そして――、

…やあ、ぼくだよ。

ああなんてうれしいの！

おいわいに、みんながかけつけました。

おにいちゃんも、おねえちゃんも、

おじさんも、おばさんも、

みんなみんな、あかちゃんにあいにいきます。

らっきいくん も、

しろちゃん も、

くろちゃん も、

まっくろちゃん も、

みんなきたよ。

おじいちゃんも、

おばあちゃんもいきます。

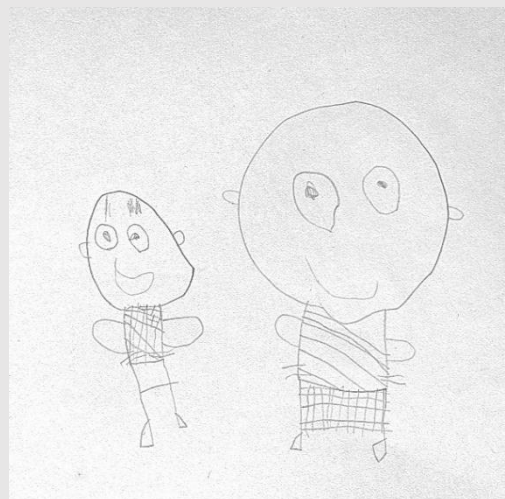
「わたしたちも いそぎましょう♪」

おたんじょうび おめでとう！

あかちゃん きてくれてありがとう。

みんなで 待っていました…

お し ま い



“Here I am!”

\*絵は本文とは関係ありません。

いのち

K 幼稚園家庭教育学級の皆さん

私たちはみんなリレーをしていて それぞれにバトンを持っている。  
そのバトンが命。  
落としてもいいけど、  
次のランナーに渡さなければならない、とても大切なもの。

守っていくこと、つなげていく事。  
責任。  
自分のDNAを永遠に続けていくための尊いもの

1人1人に与えられたチャンス。得たチャンス。  
生きている限りは 自分の人生をどう生きるかは自分が決めるしかない。  
そのための“いのち”だと思う。

何らかの役目を持っていて、自分、周りの成長にかかせないもの  
この世でいろいろな経験をするチャンスを  
神様から与えられたこと。

「いのち」はまわるもの。  
消えてゆくいのちもあるけども、  
新しく生まれるいのちもある。

なぜ生まれてくるのか。なぜ死んでしまうのか。  
うまく説明できない。  
それくらい難しいもの、神秘的なもの。

喜び、生きがい、宝  
キセキ  
はかないもの

いのち = 愛  
痛みを伴うが、いのちを教えてくれたのは我が子  
いのちは巡り、いのちは愛情をたどっていく

生命は永遠のもの  
受け継がれてきて、受け継いでいく 大切なもの。

